



## 第4回仙台市子ども読書活動推進計画（第四次）検討委員会議事録

- 日時 令和6年1月25日（木）14:05～15:25
- 場所 仙台市役所上杉分庁舎12階教育局第1会議室
- 出席委員 児玉忠委員、齋藤千里委員、佐藤のりみ委員、佐藤真弓委員、鈴木知子委員、多田知子委員、渡邊千恵子委員
- 事務局職員 柴田生涯学習部長、都丸こども家庭保健課長、田中教育指導課長、田村生涯学習課長、千葉市民図書館副館長、三澤生涯学習課企画係長、横山生涯学習支援センター事業係長、市民図書館奉仕整理係 浅野主査、生涯学習課企画係 松澤主事

### ○会議の概要

- 1 開会
- 2 挨拶（渡邊委員長）
- 3 子ども読書活動推進計画2024最終案について

子ども読書活動推進計画2024の中間案に対するパブリックコメントの実施結果、子どもの意見調査結果及び最終案について、資料に基づき事務局から説明し、意見交換を行った。

生涯学習課長 （資料2及び3について説明）

渡邊委員長 ただいまの説明について、ご意見等をいただきたい。

皆さんがお考えの間にもまず私から、この子どもの意見調査は、どう生かすかということセットで考えなければいけないと思う。大学生でも他の人の意見を共有し合うことで、気づき、何らかのアクションに繋がることがある。学校にフィードバックするという話があったが、意見を先生にフィードバックするだけでなく、子どもたちの中で共有できるとよい。今回の計画は、子どもたちが主体的に関わるのがテーマとなっているが、例えば、アンケートを定期的に行って、その結果を共有し、読書の気運を高めていくということに活用できるのではないか。子どもたちの意見が出しっぱなしにならないような使い方をしてほしい。

児玉副委員長 子どもの意見は、今回の計画にはすぐに反映できるものではないが、この調査がどう生かせるかということを考えておかないといけないのだろう。もう少し早い時期に大規模にやるというのもよかったのかもしれない。

子どもの意見を大きく分けると、一つは本の種類と量を増やしてほしい、もう一つは本との出会い方を工夫してほしい、この二点を言っている。三つ目がある

なら、いっぱい読んだらご褒美ちょうだいということを書いて、種類や量を増やすのは、お金がかかることだが、本との出会いの場や方法、チャンスを広げていくという点においては、今後も学校で様々な工夫をすとか、先生だけがやるのではなく、学年が上がってくると子ども同士でできるようになるので、そういった仕掛けも積極的にやっていくのがよい。大人からだけではなく、子どもたちの生の声とうまくクロスするように運用していただきたい。

生涯学習課長 (資料4及び5について説明)

18ページの「3 読書活動の状況を把握するための指標」の説明文について、ご説明をしたい。前回お示しした段階では、第三次計画まで設定していた数値目標を本計画では設定しないこととし、その理由として、数値で計測することが困難ということと、国においてこのような数値目標を設定しなくなったということ踏まえた説明をしていた。その際、委員から国が数値目標を設定しなくなった理由を問われ、国の計画には記載がなかったため、わからないとお答えしていたが、その後、文部科学省に問い合わせたところ、事実と違うことがわかった。国の計画では、四つの基本方針のうち一つが不読率の低減となっており、具体的な数値は記載がなかったため数値目標を設定していないと解釈したが、実は、前期計画の基本的な方針を維持するというような表現が今期計画の中に入っており、新しい計画においても前期の数値目標が維持されているという意味合いであり、数値目標をなくしたわけではないということであった。そのため、説明文から、「国においてこのような数値目標を設定しなくなった」というところは削除し、指標自体は有用なので、継続して活用していくというような表現にさせていただいた。

渡邊委員長 子どもの読書に関しては価値観も多様化しており、数値だけでは判断できない部分もあるので、特にこの数字を目指してという書き方ではなくてもよいと思うが、いかがか。

児玉副委員長 問題ないと思う。数値だけでは測れないということ。数値だと増えた、減った、多い、少ないが出るので扱い方を慎重にする必要もある。

各委員 了承。

渡邊委員長 他に最終案について気になる部分や確認したい部分などはあるか。

齋藤委員 ボランティアという立場から気になった部分だが、パブリックコメントの7番で、受け入れる側が負担になる場合があるというご意見があった。ボランティアの方に何かしら問題があるように感じてしまった。読み聞かせのボランティア

は、20年ぐらい前に市民センターの養成講座がたくさんあり、その時期にボランティアがたくさんできて今でも続けている方がすごく多く、その当時の価値観みたいなものと今は少しずれていると感じることがある。例えば学校で読み聞かせをする場合、宗教的な内容や思想的に偏りが無いかというのをグループで話し合って本を決めている人たちがいる一方、個人で活動している人たちは、一人一人の判断に任せられているので、先生に相談する人もいれば、相談せずに読み聞かせをしてしまう人もいる。ボランティアをやる側も変わらなければいけないと思うが、当時と比べて注意しなければいけないことがあっても、20年前に講座を受講してからアップデートできていない人たちもいる。定期的にスキルアップの養成講座を受けるような働きかけや意識付けが必要ではないか。ボランティアもスキルアップしていくことで、子どもたちに還元できることがあると思う。受け入れる側にもそのようなことがあるということを知ってもらいたい。

渡邊委員長      この計画の目的は、子どもが他者と関わりながらということなので、関わる人たちにもこの計画をベースにスキルアップ等について話をすることはできると思う。例えば、学校ではボランティアにお任せしているところがあると思うが、そのあたりはいかがか。

鈴木委員      最近、学校支援地域本部の方が間に入って学校やボランティアの声を吸い上げるなどしている。ボランティアの要望と学校がしてほしいことに差があったりするので、子どもたちのためになるような打合せだったり、お互い楽しくできるように話し合いをすることは必要だと思う。

佐藤のりみ委員      パブリックコメントの15番で紙の本の重要性についてご意見いただいたが、令和4年度のアンケート調査で「家にある本を読む」子どもたちが結構いるということが示されており、電子図書が流通している時代になっても、まだ紙の本が重要だということを再認識した。

また、本を読んだ理由として「テレビや映画をみて、原作を読んでみようと思ったから」という選択肢があり、以前は、本を読んで、それが映画になるという形だったが、今はアニメを見てから原作を読むというふうに変ってきているのだなと思った。きっかけはなんでもよいが、物語の世界に触れていくのがよいのかもしれないと思った。

佐藤真弓委員      乳幼児期の子どもたちを保育する立場として、絵本を通じて子どもたちの嬉しいや楽しいといった豊かな心を育む事を大事にしているが、パブリックコメントの11番に、乳幼児期の読み聞かせの体験が少ないように読み取れるとのこと意見があり、改めて言葉の使い方、表現の仕方一つで見ると人の感じ方が違うとい

うことがわかり勉強になった。

鈴木委員 様々な方策が入っており、学校でも力を入れていかなければならない。小学校4年生ごろまでは読むが、5年生ぐらいから読まなくなるという現実があり、非常に難しい。子どもたちのアンケートから、ポイントが貰えるとよいとか、出合いの仕方を工夫してほしいといった意見を参考にできるとよいと思った。

多田委員 中学生も読むか読まないか二極化しているような状況。少し前にブックトークをしてもらったところ、その後本を借りに来る子どもが増え、ブックトークはよい機会になると実感した。

ボランティアと本の中身についての打合せということでは、以前は、ボランティアのご自由にといい感じだったが、今年は教科書の中身に触れると、掲載されているおすすめの本についてもっと魅力を感じられると思いい、教科書からぜひ紹介してほしいと依頼したところ、去年と今年でブックトークの内容ががらっと変わった。教科書を見ながら「この本ありますか」と聞きにくる子もいて、きっかけ作りは大事だと実感したので、学年に応じて、中学2、3年生でもブックトークの機会を作れたらよいと思う。

小学校の取組も参考になるし、地域の方の取組もすべて他者との関わりという今回のテーマに繋がる取組ができているのではないかと思う。

渡邊委員長 パブリックコメントに対する感想などをお話いただいたが、最終案についても、特に問題ないということによろしいか。

各委員 了承。

渡邊委員長 皆様から最終案に対する修正等のご意見はなかったが、今後、修正が必要となった場合は、私と副委員長、事務局で内容を調整するが、その件についてはご一任いただくということによろしいか。

各委員 了承。

渡邊委員長 それでは、修正がある場合については、事務局より修正後の計画案を皆様へお送りすることとする。

その他、事務局から今後の予定について説明いただきたい。

生涯学習課 2月9日に開催する定例教育委員会へパブリックコメントの実施結果と最終案の報告を行い、その後、3月下旬に開催する定例教育委員会へ付議し、議決をもって計画策定となる予定である。

#### 4 その他 渡邊委員長

4回にわたり行ってきた検討委員会も最後となる。委員の皆様にも、今回の検討を振り返っての感想や今後期待するところ、運用面の要望などをお話いただきたい。

#### 齋藤委員

子どもの読書推進に関わっているが、紙だけでなく電子図書も含まれるなど、改めて読書活動は範囲が広いと実感した。

子どもが本を読まなくなったと言われてから久しい。読み聞かせを20年ぐらいやっているが、その当時から言われている。正直なことを言えば、読書は個人的なことなので、読んでも読まなくてもその人の自由だと思うが、自分は小さい時から本が好きだったので、まず読書が楽しいということを子どもたちに伝えたいと思いながら活動してきた。種蒔きをして、その蒔いた種が明日花開くかもしれないし、10年後、その人が子どもを持ってから花開くかもしれないが、その子どもの人生に何か一つでもよいことがあればよいというぐらいの先の長い話でやっている。学校や図書館だけでなく、関わっている人すべてが子どもたちの読書の推進に繋がるこの計画は、とてもよい計画だと思う。これを実行していければ読む子どもが増えると思う。

#### 佐藤のりみ委員

今回は叶わなかったが、乳幼児のお母さんに定期健診の時にブックリストを配布するだけでなく、本をプレゼントするということまでいくとありがたかった。いろいろなところで時間を過ごさなければいけない時に、1冊の本があることで助けられたりすると思う。高いものでなくても現物が渡るということが叶えられたらと思った。NHKの子育ての番組で、行政が地域のサロンで本のプレゼントをするという取組をしており、転勤してきた方が本を貰いに行ったのがきっかけでその地域に溶け込んだということが取り上げられていた。本がそのようなツールにもなると実感した。

また、委員の皆さんと今回の計画の目的について考えた時、「他者と関わる」という部分が大きな要になると感じた。人との関わりなども含め、本を通じて何かを体験するということが今後伝わってほしい。

#### 佐藤眞弓委員

子ども読書の原点は、やはり大好きなお母さんや身近な大人の膝の上での読み聞かせから始まる、それが根っここの部分ではないかとずっと思っている。

第1回目の検討委員会でもお話したが、7～8年前から自転車の後ろに紙芝居を積んで、七北田公園でのぼり旗を掲げて絵本や紙芝居の読み聞かせをしている。お母さんの膝の上なので、始まる前から子どもがニコニコしていて、読み聞かせをしていくと、子どもは夢中になり笑いもせず、だんだん前のめりになって、すごく興味を持ってくれていることがわかる。

読み聞かせの後、あるお母さんから「自分は目が見えるから我が子に好きな絵

本を読んであげることができるが、友達は全盲で、読める絵本が少ない」という話を聞いた。子どもが好きであろう本は年齢に合わせてたくさん置いているが、全盲の方向けの絵本のことを考えたことが一度もなかった。急いで県立図書館に行ってみたら数冊しかなく、本屋で買った。そういう人があるということを地域の方から教えていただき、全盲でも我が子にかけたいという思い、読み聞かせてあげたいという思いは健康な方と一緒にだと思った。自分がまだ知らないことがあり、もっとやらなければいけないことがたくさんあると実感した。

この検討委員会を通して、子ども読書の原点が、やはりここだと思つると同時に読み聞かせの活動を自分の中でもっと楽しくできるし、意味があるということを確認に感じることができた。

#### 鈴木委員

いろいろな立場で子どもたちと関わっている人からお話を聞くことで、勉強になることがたくさんあった。子どもの読書活動を推進することで、読書が好きになった子どもたちがたくさん増えて、そういう人が大人になっていくと、少し変わっていくのかなというところに期待したい。

学校に勤めていても、学校以外の公共図書館とかボランティアとか、たくさんの方と関わりながら子どもの読書活動の推進が図られている。よい関係を築きながら子どもたちのためになればと思っている。子どもと親が直接関わる時間が多い小さい時に本の大切さを教えたり、本と子どもを繋ごうとしたりする保護者の方がたくさんいると、読書への理解も深まると思う。小学校に入ると、子どもは少し親と離れて自分で本を選んだり読んだりする。その中でも小さいうちは読み聞かせなどが大好きなので、教師が子どもと本を出合わせられるように自分も関わっていきたいと思う。

このような時代なので、子どもたちは、なかなか本と密接に関わることができない忙しい中高生時代かもしれないが、「本は楽しい」という思いにまた戻れるような素地を作っていきたい。

#### 多田委員

日頃、中学生ばかり目にしていると、小さい頃にそういうことがあったのかなとか、こういう子は、こういうふうな小さい頃を送っていたのではないかなど、年代ごとの子どもたちの様子についていろいろ想像を巡らしながら、子どもたちと向き合うという視点を得られた検討委員会だった。

中学生になると本当に忙しいが、小さい頃や小学生の頃の楽しかった読書経験が根っこにあると、中学生になって若干途絶えてしまっても、高校、大学と進むにつれて、また本の魅力に目覚めるなど、中学生の時期は、そういったきっかけを繋げる段階にあるのかもしれないと思う。中学生だけを見ているとわからなかったことにもたくさん気づけた検討委員会だった。

いろいろな方に見ていただけるような冊子を作るという話だったので、せっかく作った計画を簡単に見られるように、子どもたちや保護者にも伝わるよう

なものを作っていたきたい。また、ホームページで見られるようにするという話もあったので、そのようなところから周知徹底をしていただきたい。

児玉副委員長 高等教育という領域で教員養成を仕事にしてきたが、今回検討委員会に参加したことで子ども読書の持っているフィールドの広さを改めて感じる事ができた。家庭、地域、学校、図書館、こういう広がりの中に子ども読書が続いているというところから、また考えを深めていきたい。

今回、関わりながら一番強く感じたのは、学校も保護者も迷い、悩んでいる問題があるということ。その核心に紙とデジタル、対面とオンライン、この関係が、ひと昔前、ふた昔前とは様変わりしている状況がある。保護者は、子どもにいつスマホを買ってやるのか、タブレットを渡したら、ずっと見ていてよいのか、以前では考えられなかった悩みを深刻に抱えている。繁華街にある本屋でも、行くたびに本が減って雑貨などが増えており、危機的状況である。今、紙の本がそういう状況に追いやられていることを象徴していると思う。そのような中で子ども読書を今後どうしていくかという問題は、実は非常に重たい。パブリックコメントの中にももっと紙の本が必要な理由に言及してほしいという意見があったが、この街の本屋の状況からすると、今は完全な逆風の状態と言える。だから、読書という言葉が持っている意味合いを少し拡張したり、変質させたりせざるを得ないというのは、抜き差しならない話だろうと改めて考えさせられた。

そこで、大きく二つの対立軸で示すと、これまでの読書というのは、読書体験、人間形成、このようなことを大事にしてきたのだろうと思う。そこに新たに入ってきたのは、おそらく情報活用という考え方。これとのバランスを今取らされている。情報活用は、ある意味、予測不可能な時代を生き抜くためにはどうしても必要なスキルとしてあるわけだが、不易と流行で言えば、不易の部分で人間形成に資する読書体験と、予測不可能な時代を生き抜く情報活用の力というのが軋みを起こしているように今回感じた。紙の本を復活させようというのは無理だし、全部デジタルに置き換えることも無理であり、時代に合わせたハイブリッドのありようについては、今後の運用面で考えながら次期計画に向けた取組に繋がればと思った。

好きな言葉に「いつも読みかけの本が手元にある生活」というのがある。現実にはなかなか難しいのだが、どの子どもたちも、いつも読みかけの本を1冊持っているという、そんなことを夢見ている。

渡邊委員長 いろいろな形で子どもたちと関わっている皆様方の話をお聞きすることができ、非常に豊かな時間を過ごせた。

本を読むうえで、本との豊かな関係性を作っていくこと、本を通じていかにコミュニティを作っていくかということが大切なことだと思う。こういう計画は策定したところからがまたスタートだと思うので、継続的に地道に実行し続け

ていくことが非常に大切になると思う。これから運用していく上で期待することを二つお話したい。

一つは、子どもたちに対して、仙台市は読書体験をすることについて応援をしているということを伝えてほしい。市がこのような計画を立てていることを知っている市民は少ないと思うので、やはりワンペーパーなりホームページなり、伝える媒体を作ってほしい。同時に、子どもと関わる方々「他者」に対しても、それぞれの立場でどういうことがサポートできるのか、そしてまた仙台市がどんなサポートをしているのかということについて伝えてほしい。

もう一つは、子どもたちが主体的に関わるという実効性のある仕組みを作ってほしい。国が計画で定めているからではなく、子どもたち自身の読書の推進になるような、それを始めたら子どもたち自身が回していけるようなきっかけや仕組みをぜひ作ってほしい。大人たちから何かしてもらいよりうまくいくと思う。子どもたちの力を信じて活かしていけるような仕組みを作るのが、行政の役割なのではないか。計画を作るのも、これから実行していくのも大変だと思うが期待している。

委員の皆様には、この検討委員会に参加する前よりも一層、子どもの読書をサポートしていくための太いアンテナが立ったと思うので、それぞれの場で生かし、活躍していただきたい。

生涯学習部長 挨拶。

## 5 閉会

令和 6 年 4 月 / 日

委員長（署名欄） 渡邊 千恵子

署名委員（署名欄） 佐藤 真弓